

■ 2024年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年に比べかなり難化した。例年①は取り組みやすい問題であることが多いが、本年度は少し難しかった。空間図形を苦手としている受験生が多いので、出鼻をくじかれたかもしれない。②は全事象の取り方を間違えると0点になる可能性もあり、出来具合がはっきり分かれる問題である。③は京大らしい場合分けを行う問題である。絶対値内の符号の場合分け、定義域による場合分けがあり、題材は簡単であるが受験生にとっては難しい問題である。④は求める値の前に必要条件で桁数を求めないといけないので、未知数が2つある状態で立式だけで手が出ない受験生も多かったのではないかと。⑤は本年度唯一の標準問題である。手数が多いわけでもなく、手垢のついた解法で解くことができる。作戦としてはまず⑤を確保し③を丁寧に場合分けを行い答えを合わせる。④の立式まではできてもらいたい。最後は①を腕力勝負に持ち込む方法である座標が利用できれば合格点に到達できる。

〈特記事項・トピックス〉

②の題材は場合の数で出題されることが多いが、確率であることは珍しい。一部理系と共通であった。④は無理数を評価する問題であるが、 \div で計算を行うとその部分は点数が出ない。

〈合格への学習対策〉

例年確率、微分積分、図形は頻出分野である。誘導のない問題が多いのが京大の特徴であるので、普段問題集で学習するときは誘導の意味・目的を感じる事が大切である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
①	記述	I	立体図形	等稜四面体の体積	やや難
②	記述	A	確率	立方体の色分けの確率	やや難
③	記述	I	2次関数	絶対値を含む2次関数の最大値	やや難
④	記述	A, II	整数、常用対数	八, 九, 十進法表記で桁数が等しくなる自然数	やや難
⑤	記述	I, II	2次方程式、面積	2次方程式の解の配置と領域の面積	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。